

調査観測計画部会の活動状況

令和 5 年 3 月 2 7 日
地震調査研究推進本部
政策委員会調査観測計画部会

令和 4 年 8 月 17 日の第 63 回政策委員会以降の調査観測計画部会（部会長：日野亮太・国立大学法人東北大学大学院理学研究科教授）の活動状況は以下のとおり。

1. 令和 5 年度の重点的調査対象活断層について

調査観測計画部会は、平成 26 年 8 月 27 日に策定された「地震に関する総合的な調査観測計画」に基づいて調査対象活断層を決定している。令和 5 年 1 月 31 日に開催された第 87 回調査観測計画部会（以下「第 87 回部会」という。）において、令和 5 年度から新たに実施する活断層の重点的調査観測の対象として、三浦半島断層群（主部／武山断層帯）を選定することを決定した。

2. 内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について

第 87 回部会において、「地震調査研究の推進について－地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策（第 3 期）－」（令和元年 5 月 31 日 地震調査研究推進本部）にて実施すべき調査研究として挙げられた内陸地震の長期予測手法の高度化に係る議論を開始した（別紙 1）。委員からは、当該議論の開始について前向きな意見が出され、引き続き、調査観測計画部会において具体化に向けた議論を進めることが了承された。

また当該議論について、対外的な発信の観点でも議論を行うべきとの意見が出され、調査観測計画部会の議論と並行して、広報検討部会との連携が重要である旨が強調された。

表 最近の調査観測計画部会の開催状況

開催年月日	回	議題
令和 5 年 1 月 31 日	第 87 回	(1) 令和 5 年度重点的調査対象活断層について (2) 内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について (3) その他

第 87 回調査観測計画部会資料
計 87-(3) から一部改変

内陸地震の評価高度化に向けた手法の検討（案）

（論点）

活断層調査（現行）+GNSS等の測地データ、歴史地震を組み合わせた新たな評価手法を検討してはどうか

◆有識者からのヒアリング結果のまとめ（イメージ）

